

授業概要

日本の「家族」は、社会状況に影響を受けながら時代とともに変化してきたが、その一方では、空間的多様性を持ちながら存在してきた社会集団である。そこで、家族の定義や家族に関する概念・基本的な知識を踏まえ、“時代”および“空間”をキーワードとして、多様な家族の姿を捉えていきたい。そして、家族構造に関する三つの立場を紹介しながら、現代家族の持続と変容について講義する。

授業計画

第 1 回	講義のねらいと家族の定義
第 2 回	家族研究の意義と家族の存在意義
第 3 回	家族の普遍性と家族研究の可能性
第 4 回	時代を映す家族の姿（1）——「家」制度
第 5 回	時代を映す家族の姿（2）——核家族化
第 6 回	時代を映す家族の姿（3）——近代家族
第 7 回	時代を映す家族の姿（4）——単身世帯の急増
第 8 回	空間的多様性を見せる家族の姿（1）——婚姻慣行
第 9 回	空間的多様性を見せる家族の姿（2）——相続慣行
第 10 回	空間的多様性を見せる家族の姿（3）——大家族と隠居制
第 11 回	家族形態と家族構造
第 12 回	家族構造に関する立場（1）——変質論
第 13 回	家族構造に関する立場（2）——同質論
第 14 回	家族構造に関する立場（3）——異質論
第 15 回	講義のまとめと理解度の確認
第 16 回	定期試験

到達目標

家族の存在意義や家族の普遍性について理解を深める。
日本の家族における時代的変化と空間的多様性を把握する。
家族構造に関する三つの立場の主張と論拠の差異を理解する。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。講義開始後 30 分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。

予習復習

参考文献や各種資料などから、取り上げるテーマやキーワードについて簡単な予備知識を備えておく。その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、定期試験と平常点を総合的に勘案して評価する。
配分は、定期試験 50%、受講態度や取組姿勢等 25%、考察作業プリントや提出物 25%である。

テキスト

プリント資料を配付する。
参考文献：清水浩昭編著 『家族社会学へのいざない』 2008 年 岩田書院
参考文献：施利平 『戦後日本の親族関係』 2012 年 勁草書房